



さか ぐち ふみ ひこ
坂口文彦

生年月 1990年1月大阪府生まれ
最終学歴 2014年関西大学大学院
理工学研究科
ソーシャルデザイン専攻
建築学分野修了
業務経歴 2014年(株)東畑建築事務所
入社
現在、設計室主任技師

●担当した主なプロジェクト
2018年 関西大学 千里山東体育館
2019年 医療法人篤友会 千里山病院
2022年 橿原市 新本庁舎
2024年 関西大学 第一中学校・高校
2024年 某財団 納骨堂・新御堂
2023年 同志社大学京田辺校地
リニューアル整備
2025年 桃山学院大学 工学部新棟

■青年技術者のことば

学生時代、通い慣れたキャンパスの建物が改築される経験をしました。それに伴い丘陵地らしい開けた風景が生まれ、建物が変化すると、周囲の風景も変化することを実感しました。どんな建物でも、そこを通る人、その街に住まう人の無意識の中に風景として刻み付けられることを、身近な環境の変化から学びました。

建築を創る上で共通していることは「ある環境の中に建つ」ということです。できた建築は周辺に影響をあたえ、否応なく社会性を帯びます。であれば、施主や利用者の為だけではなく、周りの環境を良くする建築をつくるのが我々に課せられた課題と考えることができます。

そこで、私が設計に際して心がけていることは「環境を受け継ぎ育む為の在り方を考える」ことです。施主と設計者間でのやり取りを超えて、その土地の歴史や環境などの広い射程を持ち込むことを大事にして取り組んできました。そうしてより多くの事象を巻き込んだ建築をつくることで、長く愛される風景が生まれると信じて、これからも取り組んでいきたいと思えます。

■すいせん者

石井康彦
(株)東畑建築事務所
設計室 室長

学校法人 関西大学 第一高等学校・第一中学校校舎 建替計画 (I 期工事)



旧建物の外壁形状を継承し、最大限の樹木保全を実現した緑に包まれた学校

学校敷地内では課外活動や登下校、休み時間など1日を通して外部での活動が展開される。狭い計画地だからこそ外部空間を広く確保することを考えた。旧建物の形を継承し、外部環境と面積確保が両立する計画とし、密度の高い活動が展開されるインタラクティブな環境を創出できた。



外観 (エントランス前)



メタリックルーバーの反射光に包まれる普通教室



既存施設の外壁ラインを踏襲し周辺の緑地を最大限残した形状のメディアライブラリー



周囲の地形と連続するメディアライブラリー

学校法人 関西大学 第一高等学校・第一中学校校舎 建替計画 (II 期工事)



原風景となる丘陵の風景を取り込んだラーニングcommons

新たな顔となる丘陵と学生の風景を纏った建築

新しいキャンパスの顔となる風景を目指した。旧校舎建設時に形成されていた、スタンドと緑の上に赤い屋根が特徴の建物が建つ丘陵地らしい立体的な景観の再興と、丘陵と豊かな緑の風景の奥に、学生が活動する様子が見える風景を計画した。内部空間にも丘陵の要素を取り込み、学生たちの原風景と周辺環境が重なることを考えた。